

## ◆A 主として知識に関する問題

### 特に課題が見られた内容

#### 「百分率」

「百分率を求めること」に課題がある。

(数量関係) 設問 7

	正答率	無解答率
本 県	55.4%	1.5%
全 国	56.9%	1.5%

#### 「図形の定義や性質」

「四角形の4つの角の大きさの和の求め方の理解」に課題がある。

(図 形) 設問 5 (1)

	正答率	無解答率
本 県	65.3%	10.9%
全 国	67.9%	10.3%

### 指 導 上 の 工 夫

#### ●百分率の意味や割合の考えを理解できるようにする学習活動の工夫

- ・百分率が日常生活の中でどのように使われるかを考える活動を通じて、百分率の意味の理解を深めさせる指導が大切である。
- ・割合については、求め方を知るとともに、何が基準量で、何が比較量であるかを読み取らせる指導が大切である。
- ・問題の意図することを線分図やテープ図に表して確認する活動や小数倍や百分率で表される割合と1(全体)との関係を、実際の数量の大小関係で比較検討して考えさせる指導が大切である。

#### ●身の回りの事象を観察して図形を見だし、問題解決に必要な情報を選択する学習活動の工夫

- ・身の回りから学習した図形を見いだす活動や、見いだした図形のどの情報を用いれば問題を解決できるかを考える活動を充実させることが大切である。
- ・基本的な図形の性質に基づいて図形を弁別し、そこから生じる図形の性質を明らかにするとともに、面積や角度などの数量を求める活動を充実させることが大切である。
- ・基礎的・基本的な事項について、既習内容をスパイラル的に学習し直す指導が大切である。

## ◆B 主として活用に関する問題

### 特に課題が見られた内容

#### 「資料の数学的な解釈と判断の根拠の説明」

「基準量と比較量の両方の大小に着目して、割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述すること」に課題がある。

(数量関係) 設問 5 (3)

	正答率	無解答率
本 県	17.2%	6.6%
全 国	17.7%	7.6%

#### 「事象の観察と論理的な考案」

「示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを数、言葉や式を用いて記述すること」に課題がある。

(図 形) 設問 1 (3)

	正答率	無解答率
本 県	30.7%	5.9%
全 国	30.4%	5.8%

#### 「情報の選択と判断の根拠の説明」

「与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述すること」に課題がある。

(数と計算) 設問 3 (3)

	正答率	無解答率
本 県	32.0%	9.3%
全 国	33.9%	9.2%

### 指 導 上 の 工 夫

#### ●様々なグラフを目的に応じて読み取り、判断の根拠を言葉や式を用いて記述する学習活動の工夫

- ・割合が(比較量)÷(基準量)で求められることを基に、二つの量が関係していることを確認したり、根拠として何を述べれば十分な説明になるかを話し合ったりさせる指導が大切である。
- ・基準量と比較量の大小関係に着目して割合の大小を判断する活動においては、基準量、比較量、割合を数直線図などに表し、それらの関係を視覚的にとらえさせる指導が大切である。
- ・社会科や理科などの他教科での学習においても、算数科で学習した知識を基にして、様々なグラフから事象をより確かに読み取ることができるようになる指導が大切である。

#### ●他者の解決方法を基に、見方を変えて解決方法を考え、説明する学習活動の工夫

- ・言葉、数、式、図などを用いて自分の考えを他者に伝えたり、自らの考えを振り返ったりする指導が大切である。
- ・考えを出し合って説明する活動では、良い点について話し合ったり、不十分な点について何を補えばよいかを話し合ったりする活動を充実させることが必要である。
- ・一人の児童の考え方を他の児童が説明するなど、他者の解決方法も自分のこととして考えさせたりして、よりよい解決方法を探らせる学習活動を充実させることが大切である。

#### ●条件を考慮して必要な情報を整理したり選択したりし、判断の正しさを説明する学習活動の工夫

- ・条件及び条件から分かる事柄を順に記述する活動を取り入れ、問題解決の過程を自分で確認させる指導が大切である。
- ・条件に合わせて答えを確認したり、条件に合うものが他にないかを考えたりするなど、判断の正しさを説明するために何を示すことが必要かを考える活動や、必要な事柄がすべて含まれているかを確認する学習活動を充実させることが大切である。
- ・判断の正しさを説明するために他に示すべき事柄を考えたり、不十分な説明を適切な内容に改善したりする学習活動を充実させることが大切である。

## ◆定着傾向が認められる問題

#### ●整数、分数の四則計算は、多くの児童が理解できている。

- ・  $725 \times 8$  (設問 A 知識 1 (2) 正答率：県 86.4% 国 85.6%)
- ・  $204 \div 4$  (設問 A 知識 1 (3) 正答率：県 95.6% 国 95.4%)

#### ●小数の計算、特に小数のわり算に改善傾向が見られる。

- ・  $12 \div 0.6$  (19 年度設問 A 知識 1 (4) 正答率：県 77.4% 国 72.7%)
- ・  $68.4 \div 36$  (20 年度設問 A 知識 1 (4) 正答率：県 77.5% 国 76.2%)
- ・  $48.1 \div 1.3$  (21 年度設問 A 知識 1 (4) 正答率：県 81.9% 国 80.4%)

(注) 課題が見られた内容は、「A知識」「B活用」両問題ともに正答率が低い5問を抽出し、その中から無解答の状況や領域などを考慮して「A知識」は2問、「B活用」は3問を選択しています。